

=====

DoorDoor mk2 面データ分離プログラム

=====

```
5 REM Pick-up Program for DOORMk2
6 REM 面Data -> Memory
7 REM 1985/9/1
8 REM Mode5:Files0:Page4
9 BLOAD"DoorM2",&H4000:REM 9220H-B21FH
10 SCREEN 1,1,1:CLS
20 I=&H4000H:AD=&HB21F:AE=&HD21F
30 D0=PEEK(I):D1=PEEK(I+1)
41 POKE AD,D0:LOCATE5,5:PRINT HEX$(AD):REM 51-100面
42 POKE AE,D1:LOCATE5,7:PRINT HEX$(AE)::REM 01-50面
45 AD=AD-1:AE=AE-1:I=I+2
46 IF AD<&HA200 THEN SCREEN 1,1,1:PRINT HEX$(I):END
50 GOTO 30
```

=====

■解説

- ・"DoorM2"はテープからベタ読みした面データ部分を切り出したファイル
(テープ後半部の3CE0h~5CDFhの範囲に相当する部分で、サイズは2000h)
前半後半の50面が、1バイトずつ交互に配置されており、
実際のSetAddに対して、データは逆順(B21Fh→A220h)に格納されている
- ・これを、フリーエリアの4000H~に読み込む
- ・これを先頭から1バイトずつ読み取って (PEEK文)、
本来のアドレスに降順にセットしていけばよい。
- ・便宜上、前後半を一度に処理するため、後半は1000Hシフトさせておく
 - ① B21FH~A200H 本来のSetAdd (前半50面分のデータ)
 - ② D21FH~C200H シフトしたAdd (後半50面分のデータ)
- ・①と②に交互に1バイトずつ並べ直しながら格納 (POKE文) していく
- ・終了したら、まず前半50面データを
BSAVE"DOORM2.D01" として保存する
- ・後半50面データは、モニタモードで①前半データと同じアドレスにブロック転送して
BSAVE"DOORM2.D51" として保存する